

新規事業評価調書

【街路事業】

都市計画道路 荒川線（井ノ口）

県土整備部

土木局 道路街路課

投資事業評価調書（新規）

部課室名	県土整備部土木局 道路街路課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	街路担当参事 上野 敏明 (街路班長 關 康夫)	内線	4474 (4480)	
事業種目	事業名	事業区間	総事業費	内用地補償費	着手予定年度	完了予定年度
街路事業	都市計画道路 荒川線（井ノ口）	姫路市井ノ口	9.0 億円	6.1 億円	平成 29 年度	平成 34 年度
事業目的			事業内容			
<p>当該路線は、周辺に存する J R 英賀保駅や市立荒川小学校、県立姫路商業高校等の公共施設へのアクセスを確保する地域の重要な生活道路である。</p> <p>○区画整理事業と合わせた道路整備 本区間の南側では組合施行の土地区画整理事業により、当該路線と平面交差する J R 及び県道と久今宿線の立体交差化事業が実施され、これにより問題踏切である柵田踏切の除却が行われることとなっている。本事業を合わせて実施することで、踏切による交通渋滞を解消するとともに、良好で安全な市街地形成を図る。</p> <p>○安全で円滑な交通の確保 通学や通勤等に伴う自転車や歩行者の利用が多いことから、歩道等の整備により、安全で円滑な交通を確保する。</p>			<p>【延長】 歩道整備（両側）L=162m</p> <p>【現況幅員】 2車線+1.7m片側歩道 W=5.5(8.2)m</p> <p>【計画幅員】 2車線+4.0m両側歩道 W=6.0(20.0)m</p> <p>【現況交通量】 自動車：17,324台/日（H22 センサス） 歩行者：535人/12h（H22 センサス） 自転車：778台/12h（H22 センサス）</p> <p>【負担割合】 国：55%、県：22.5%、市：22.5%</p>			
評価視点	評価結果の説明					
(1) 必要性	<p>① 本区間の南側では、J R 英賀保駅周辺土地区画整理事業により、柵田踏切や柵田交差点の立体交差化を行っているが、区画整理事業だけでは立体交差化が完結しないため、現道への取り付け区間として当該工区を一体的に整備する必要がある。</p> <p>② 柵田踏切は、自動車交通遮断量が54,999台時/日で、自動車交通の著しい踏切（50,000台時/日以上）として、踏切すっきり安心プラン（H26）の問題踏切に位置づけており、渋滞解消を図る必要がある。</p> <p>③ 近隣には J R 英賀保駅や荒川小学校、姫路商業高校等が立地しており、通勤や通学等で多数利用されているが、自動車交通が多い中、狭小な歩道を通行しており、危険な状況である。</p>					
(2) 有効性・効率性 (執行環境状況)	<p>① 土地区画整理事業との一体整備で地域発展の基盤となる。</p> <p>② 歩道等を整備することで、安全で円滑な走行空間が確保できる。</p> <p>③ 広幅員化により、建物火災や倒壊等が発生した際でも通行できる道路として、防災機能の強化を図ることができる。</p> <p>④ 地元より早期事業着手の要望がなされており、協力体制等事業執行環境が整っている。</p> <p>⑤ 平成 11 年 3 月都市計画決定</p>					
(3) 環境適合性	<p>① 車道舗装を排水性舗装とし、交通による騒音を低減し、沿道環境の改善を図る。</p>					
(4) 優先性	<p>① 区画整理事業（H34 年度完成予定）において実施する、柵田踏切及び柵田交差点の立体交差化と当該工区を一体的に整備することによって、事業効果が発現される。</p>					

位置図

姫路市

事業箇所

姫路循環器病センター
(H33年度移設予定)

山陽新幹線

(都)四ツ池線

事業区間
L=162m

(都)荒川線

(都)岡田東西線

姫路商業高校

姫路しらさぎ
特別支援学校

荒川小学校

郵便局

手柄山中央公園

国道2号バイパス

JR英賀保駅周辺
土地区画整理事業

(街路(市))

英賀保駅

(一)和久今宿線

(都)中央南北幹線

街路-2

凡例

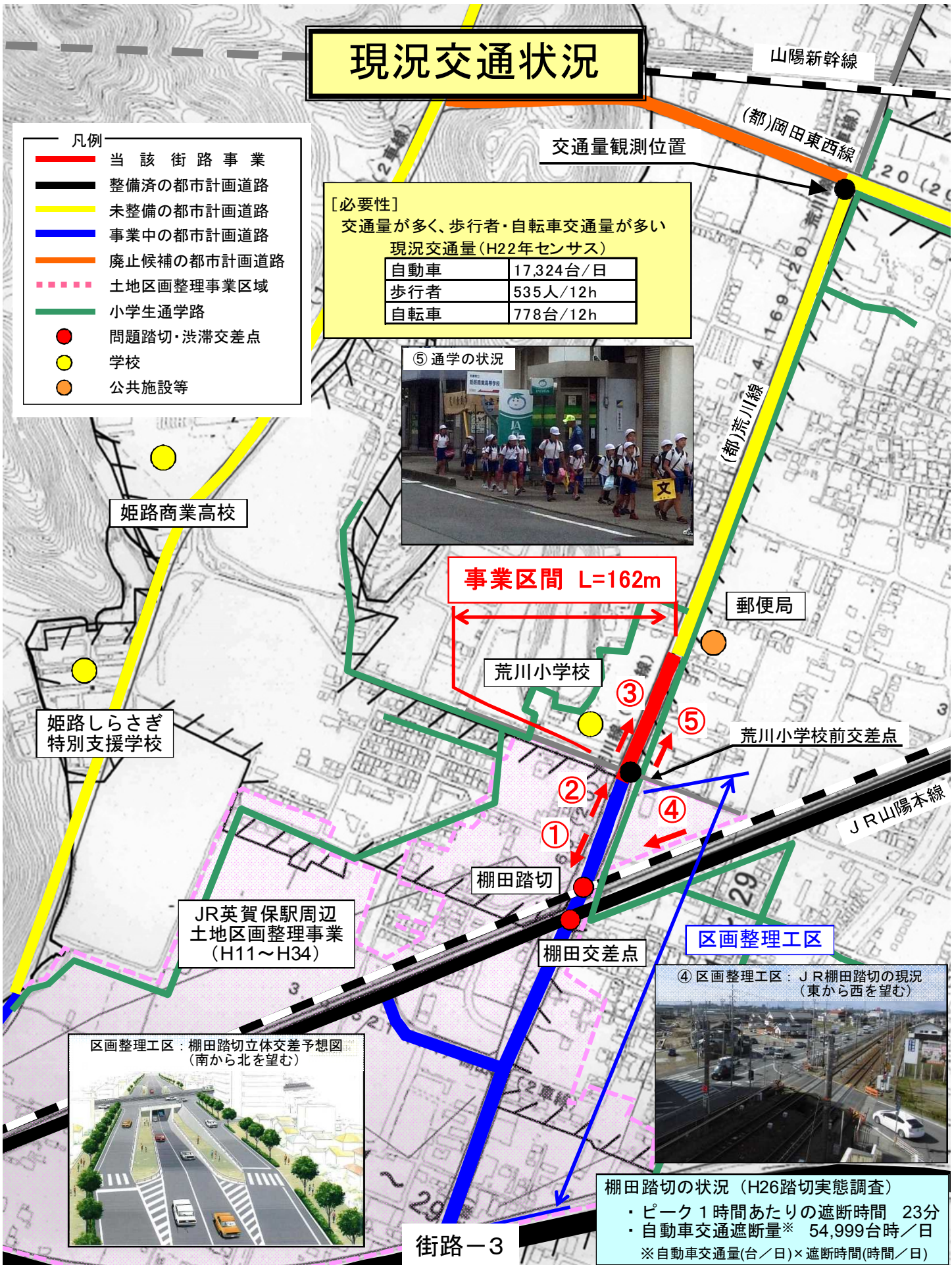
- 当該街路事業
- 整備済の都市計画道路
- 未整備の都市計画道路
- 事業中の都市計画道路
- 廃止候補の都市計画道路
- 土地区画整理事業区域
- 問題踏切・渋滞交差点
- 学校
- 公共施設等

現況交通状況

- 凡例
- 当該街路事業
 - 整備済の都市計画道路
 - 未整備の都市計画道路
 - 事業中の都市計画道路
 - 廃止候補の都市計画道路
 - - - 土地区画整理事業区域
 - 小学生通学路
 - 問題踏切・渋滞交差点
 - 学校
 - 公共施設等

[必要性]
交通量が多く、歩行者・自転車交通量が多い
現況交通量(H22年センサス)

自動車	17,324台/日
歩行者	535人/12h
自転車	778台/12h



事業区間 L=162m

姫路しらさぎ
特別支援学校

姫路商業高校

JR英賀保駅周辺
土地区画整理事業
(H11~H34)



街路-3

棚田踏切の状況 (H26踏切実態調査)

- ・ピーク1時間あたりの遮断時間 23分
- ・自動車交通遮断量※ 54,999台時/日

※自動車交通量(台/日)×遮断時間(時間/日)

現況写真

① 棚田踏切付近



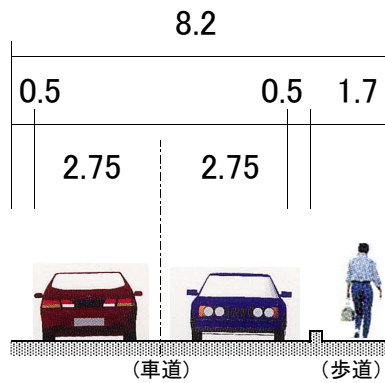
② 事業区間南端付近



③ 荒川小学校前交差点から北側を望む

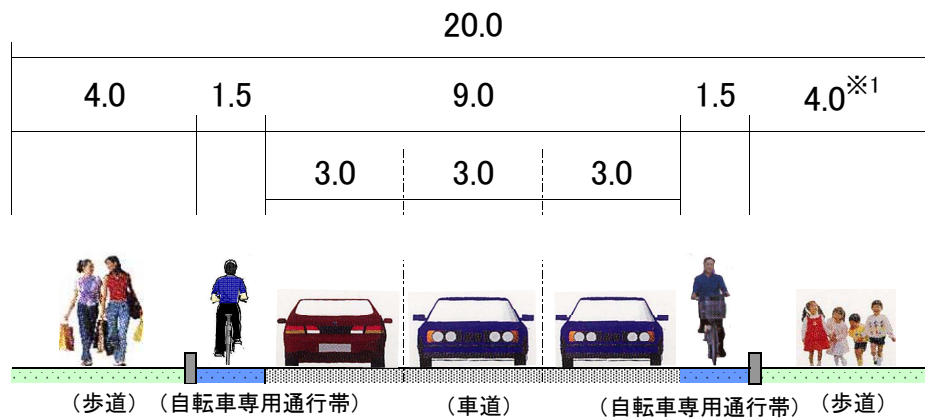


現況断面図



計画断面図

(交差点部) ※荒川小学校前交差点



※1 施設帯0.5mを含む

スケジュール

	H29	H30	H31	H32	H33	H34
調査設計						
用地補償						
工事						

道路・街路事業の効果

対象事業：街路事業（都）荒川線

（１）都市計画道路（荒川線）整備による効果

評価の視点		効果項目	該当する事業内容	
①安全・安心の確保	災害時	緊急医療・緊急物資の円滑な輸送の確保 (※緊急輸送道路の整備、防災拠点・災害拠点病院へのアクセス道路)	—	
		救助・救援活動の支援 (※災害時の通行不能や孤立集落の解消)		
		減災対策への取り組み (※二線堤道路、避難路・避難場所としての機能、延焼防止機能の確保)	○	・火災時の延焼遮断帯としての機能確保（幅 20m）
	平時	救急医療体制の支援	—	
		交通安全対策	○	・歩道等の整備により、歩行者・自転車の安全を確保
②地域の活性化		地域間交流の促進	—	
		中心市街地の活性化	○	・市中心部へのアクセス性が向上
		地域産業の活性化	—	
		観光支援	—	
		地域プロジェクト等支援	○	・土地区画整理事業と一体となった道路整備
③円滑な交通体系の確保		公共交通機関利用の促進 交通結節機能の向上	○	・鉄道駅へのアクセス性が向上
④地域の環境改善		沿道環境の改善 景観形成	○	・排水性舗装による騒音の軽減や交通渋滞の解消による沿道環境の改善

（２）地域からの要望状況等

要望状況等	地元から早期整備の要望がなされており、事業の執行環境は整っている。
-------	-----------------------------------